

## 平成29年度 第1回蒲郡市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進協議会 議事録要旨

1. 日時 平成29年6月28日（金）10:00～12:00

2. 場所 蒲郡市役所 5階 庁議室

### 3. 参加者

(1) 蒲郡市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進協議会 委員

- 1) 山下 英孝 氏 (蒲郡商工会議所 専務理事)
- 2) 稲熊 武彦 氏 (蒲郡市農業協同組合 代表専務理事)
- 3) 小林 俊雄 氏 (蒲郡市漁業振興協議会 会長)
- 4) 鈴木 和範 氏 (蒲郡市観光協会 常務理事)
- 5) 廣田 正 氏 (愛知工科大学)
- 6) 水野 正行 氏 (連合愛知三河東地域協議会 蒲郡地区連絡会 議長)
- 7) 岩瀬 雅史 氏 (蒲郡市総代連合会 会長)
- 8) 金子 哲三 氏 (がまごおり市民まちづくりセンター 代表)
- 9) 丸山 有美子 氏 (蒲郡市保育園父母の会連絡協議会 会長)
- 10) 朝比奈 あけみ 氏 (蒲郡市小中学校 PTA 連絡協議会 副会長)
- 11) 和泉 潤 氏 (名古屋産業大学 特任教授)
- 12) 井澤 勝明 氏 (蒲郡市 副市長)

(2) 事務局

・蒲郡市

企画部長 大原義文、企画部企画政策課 次長兼課長 飯島伸幸、係長 小山道徳  
ほか2人

### 4. 議事内容

(1) 会長・副会長選出について

- ・委員推薦により、会長は和泉委員とする。理由は、昨年度から本会議の会長を務められ人口ビジョン・総合戦略策定に尽力頂いているなど、蒲郡市に精通しているため。
- ・会長指名により、副会長は酒井委員とする。理由は、総合戦略については、地域に住んでいる方々が非常に重要な役割を担うと考えているため。

(2) 平成28年度地方創生交付金事業について

1) 地方創生交付金について

- ・事務局（企画政策課杉浦）から2種類の地方創生交付金（加速化交付金・推進交付金）について説明。

2) 地方創生交付金事業の実績報告について

- ・事務局（企画政策課杉浦）から平成28年度実施の各地方創生交付金の事業概要、KPI に対しての達成・未達成の報告、実績値を踏まえた今後の事業について説明。

## 《説明資料》

- ・資料 3-1、3-2

平成 28 年度地方創生加速化・推進交付金実施事業

### 【農産品等販路拡大について】

- ・海外ビジネスマッチングを実施して、大変公表だったと聞いている。香港のバイヤーに来ていただくのはどうかと声があったようだが考えているか。  
→ 蒲郡を実際に訪ね、知りたいという声が香港に行ったときにはあった。今年度については香港に行く事業を考えており、現在のところバイヤーの招請は考えていない。(観光商工課長)
- ・農産品の販路を拡大するのは積極的に実施していきたいと考えている。数量等が限られているため国内のブランドを高め販路を広げていきたい。
- ・国内販路と海外販路では嗜好が異なる。また、蒲郡ではみかんの種類を開発し、ブランド化を進めている。どのような手法で販路を開拓していくかを見定めたほうが良い。

### 【みなとオアシスの活用について】

- ・みなとオアシス周辺は施設が少なく魅力に欠ける部分がある。また、竹島埠頭を整備することで、大きな客船を誘致したり、外から船で来る、市民の方が船で遊びに出かけるなどができるようになるとさらに魅力が増す。
- ・みなとオアシスについて様々な事業を実施し、港を積極的に活用していく戦略であると思うが、市民の方とネットワークや連携をし、港の戦略の共有をしていくことでさらに発展していくと考える。  
→ 市民の方たちと共有し、情報発信していきたい。(事務局)
- ・港の活性化についてどの部署が主となって行っていくかを明確に決めてほしい。また、みなとオアシスエリアについての中長期的な戦略を立てて市民の憩いの場としても活用できるようにしてけると良い。
- ・イベントを実施しても立ち寄ってすぐに帰ってしまう傾向がある。休憩できるスペースなどを設けるなど滞在時間を延ばすような事業、整備を実施していただきたい。
- ・海の事業は盛んであるが、登山道などもあるので山にも着目した事業を実施してはどうか。  
→ 「健康」というキーワードでウォーキングマップを作成し、また、五井山に登る事業を行っている。

### 【漁業振興について】

- ・三河湾は現在不安定な状況であり、西三河の方ではあさりにも被害が出てきている。水がきれいになりすぎてしまい魚や貝類がいなくなってしまった。アサリがとれなくなると潮干狩りが出来なくなる。潮干狩りは観光にも繋がっているため、県や市も一緒に考えていただきたい。また、魚が捕れなければ新規就漁者が増え

ない。総合戦略にある平成31年度までに新規就漁者4人を達成するのは難しいかもしれない。

- ・漁業の後継者の育成は重要な課題となっており、後継者を育てるだけでなく、海そのものを育てていく必要がある。観光にも繋がっている面があるため、総合的に検討する必要がある。

#### 【観光振興について】

- ・観光の面でも蒲郡の特産品であるみかんやめひかりなど食の面からもPRしており好評である。
- ・交付金を活用した事業だけでなく、観光協会として様々なところでプロモーションを行っている。

#### 【連携体制について】

- ・事業を実施していく際には所管課と関係団体との連絡を密にしていくことが大切である。
  - 事業を実施していく際には各種団体の方に入っただいて声を聞きながら事業を実施してきているが、今後さらに市民の方の声を聞きながら事業を進めていきたいと考えている。(事務局)
- ・事業を実施していく協議会などでの場で事後報告の場合がある。意見を拾ってもらえるよう考慮していただきたい。

#### 【情報発信について】

- ・事業を行っていただくのはありがたい。ただし、市民の視点から見ると実施していることを知らない事業もある。情報を市民に共有することは大きな課題だと感じる。市民に周知することを大事に考えていただきたい。
  - 市民の方に事業を周知することは課題だと思っている。広報に載せるだけでなく、様々な手段で実施していきたいと考えている。(事務局)
- ・メディアに取り上げられることは非常に効果大きい。現在竹島水族館がメディアに多く取り上げられているがどのように働きかけをしているのか。
  - 大きなイベントだと記者会見を行っている。随時記者リリースもしているので、記者には情報は届いている。(事務局)

#### 【その他】

- ・量だけではなく、質を評価していくことが必要である。質の評価をする際はサービスを受ける側の評価だけではなく、実施する側がどれだけ意識を高くやっているのかを評価していくべきである。

#### (3) 平成29年度実施事業について

- ・事務局（企画政策課杉浦）から推進交付金事業の概要、昨年度の事業の実績からどのように事業を変更し実施していくかを説明。

- ・交付金に基づかないものを含んだ地方創生に資する平成29年度に実施している総合戦略に基づく新規事業について説明。  
議論が足りない部分に関してはヒアリングシートに記載の旨を説明。

#### 【交付金事業について】

- ・交付金事業にあるイノベーションセンター事業について、単なる場所貸しに終わらずソフト事業も充実させ、創業者をフォローしていく事業にしていきたいと考えている。

#### 【インターンシップ事業について】

- ・大学生のインターンなどの動きが活発になってきている。次世代の人材育成について有効な施策のため、事業化していただくと5年後、10年後の成果に繋がっていく。
  - 高校生の職業体験は進学や生徒のキャリアデザインの絡みもあることから盛り上がらないのが現状である。生徒と企業の双方が納得していく形であれば高校生のインターンも有効であると考える。
  - 市役所においても中学生の職業体験を受け入れている。大学生についても毎年4～5人受け入れている。(事務局)
- ・漁業のインターンは、受け入れ側と生徒がやってみたいこととの思いが異なるところがある。現状で忙しい中、将来的に新規就業してくれるか不明な段階ではメリットを見い出せないケースが生じている。
- ・大学において蒲郡市と幸田町で相当数の企業に受け入れていただいている。大学3年生の人数よりもインターンを受け入れていただく数が上回っている状況にある。
- ・がまごおり産学官ネットワーク会議で協力をいただき、超小型衛星を地元企業と連携して製作している。このプロジェクトを通じて学生が市内の企業を知っていただく機会になるとよい。また、大学と市内企業の距離が近づいてきていると感じている。
- ・インターンは受け入れ側とのマッチングが非常に重要である。市が企業と高校との間に入ることも必要である。

#### 【子育て施策と働く場の確保について】

- ・子育て施策に力を入れていただいているが、児童クラブについて希望者が多く、広さに余裕がなかったり、児童クラブに入れられない現状がある。お金を払っても良いので充実した児童クラブ生活ができるようになると預ける親として安心である。
  - 昨年度までは待機児童ゼロを継続していたが、小学生の待機児童が出てしまった。待機児童がでないよう到来年度児童クラブ増やす計画をしている。(事務局)
- ・少人数学級や英語教員の確保など教育に力をいれていただきありがたい。今後も

子育て世代の施策を進めていただきたい。

- ・総合戦略を策定する際、子育て施策に一番力を入れていくと決めたため、出生率について会議内で言及していく必要があるのではないか。
- ・女性の社会進出が進んできている。子育てしながら働くために児童クラブなどが充実してきているが、子育てしている人が望む短時間の求人が少ない。また、国の政策で定年延長が進む可能性がある。60歳を超えても元気な方が多いため、この世代の雇用も生まれるとさらにまちが良くなっていくのではないかと。
- ・女性の力や65歳以上の方の力をどのようにいかしていくか戦略を練っていく必要がある。
- ・有効求人倍率が低く、人手が余っている状況では、仕事づくりをしていくことを考える必要がある。そのために交付金事業にある産業活性化事業はしっかりと進めていく必要がある。

#### 【外国人対応について】

- ・外国人の在住者が増えている。コミュニティの部分で問題になることもある。産業に関して外国人の対応も必要だが、学校や地域でも受け入れ態勢を整える必要がある。  
→ 教育現場において外国人対応の教員を配置したり、外国人登録を担当する市民課窓口と教育委員会との連携を密にしている。(事務局)

#### 【その他】

- ・29年度にセーリングワールドカップがあると思うが、大会が実施されるだけでなく、市民の方に情報発信していただきたい。

#### 《説明資料》

- ・資料4 地方創生推進交付金 実施事業
- ・資料5 平成29年度に実施する総合戦略に基づく新規・拡大事業
- ・蒲郡市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進協議会 ヒアリングシート

以 上